

■ 甘え、誰かが何とかしてくれる

修正： 2018.04.01

投稿： 2018.04.01



● 甘え、誰かが何とかしてくれる①

「どうせ、誰かが何とかしてくれる」と、

私たちは心の奥底でそう思い込んでいます。

北朝鮮が人工衛星と称しミサイルを打ち上げた、
となれば、政府の担当者は戦々恐々としますが、
国民はさほど緊張しないのではないのでしょうか？

「政府が何とかしてくれる」と思っているからです。

「いやいや緊張してるよ、気になってるよ！」
と言う人もおられるかもしれませんが、であれば、
そのために何か対策はしてますでしょうか？

気にはしても、結局は誰かが何とかするだろう、と
対策は他人任せなのが実態です。はたまた、

風邪を引いた、インフルエンザになった、
けど、そこまで深刻には考えていない、なぜか？

「医者が何とかしてくれる」と思っているからです。

**「現代医療は昔とは比べ物にならないほど進歩した、
病院にさえ行けばどんな病気でも治してもらえる、
健康を多少疎かにするくらいなら大丈夫だ！（￣▽￣）」**

と、言葉にこそしませんが、
そう思い込んで安心していないのでしょうか？

そうしてアルコールにタバコ、暴飲暴食を続けた結果、
当然ながら身体の健康は損なわれていきます。

そうなって初めて医者にかかり、
「どうにもなりません！無理です！」と事実を告げられれば、
「そんな無責任な！あんた医者だろ！何とかしろ！」
と懇願したくなるころですが、もはや後の祭りです。

以降、「どこまでいっても他人任せな人間の実態」
ということで、説明を続けてまいります。

(続)

//=====//

●甘え、誰かが何とかしてくれる②

「奨学金の返済額が高すぎて、手取りの貧しい社会人は、
月々の返済が追いつかず、苦しい思いをしている」
とニュースで取り上げられていました。

そして、京都の博士課程の学生が、
「授業料が高すぎる、政府はもっと教育を支援すべきだ！」
と抗議しておりました。これに対して、

「いやいや、だったらお前もう学生辞めて就職しろよ！」
「奨学金は自分で借りたいんだろ？借りたいものは返せよ！」
と厳しい意見が飛び交っておりました。

「奨学金」と言われれば、何だか
支援してもらっているような印象を受けてしまいますが、
実態はただの「借金」です。

どんなに美しい言葉で表現しても、借金は借金です。
「奨学金」と言おうと「将来への投資」と表現しようと、
「借金」であることに変わりはありません。

「奨学金借りられれば、一生懸命アルバイトしなくても、
悠々自適な学生生活を送れるぞい！（`ー´）ノ」

「社会人は、時間はないがお金ならある、と言われているし、

働けば給料たくさん貰えてすぐに返せるでしょ？（￣▽￣）」

と気軽に奨学金を申請する学生もおられますが、ここにも
「誰かが何とかしてくれる」という甘えが見え隠れしています。
この場合は「**将来の自分**」ということになります。

深く考えず、投資と信じて、安易に奨学金に手を出せば、
後々、月々の返済に迫られるという苦しい未来が待っています。
「**みんなやってるから大丈夫！**」という感覚では、薬物と同じです。

「奨学金」と言うのは「借金」です。
誰かが何とかしてくれるものなどではなく、
自分で何とかしなければならない借金なのです。

（続）

//=====//

●甘え、誰かが何とかしてくれる③

前回、奨学金の話を取り上げましたので、
引き続き、奨学金の話を続けます。

学生は気軽に奨学金を申請しがちです。

「みんなやっている」「働いて給料を貰えれば簡単に返せる」
「学生のうちの教育費は将来への投資だ！」
と安易に考え、奨学金に手を出します。

以前、ニュース番組にて、
「**妻の奨学金の返済は、夫が責任を負うのか？**」

という夫婦間のトラブルが取り上げられていました。

妻の言い分としては、

「私は専業主婦としてあなた(夫)を支えている。
だからあなたが私の分の奨学金も払うべきだ！」

と言うものです。これに対して夫は、

「いやいや、そんな自分でした奨学金は自分で返すべきだ！
何でもこっちに押し付けてくるな！」

と言うものです。この事例では、

夫側に有利な判決が出ておりました。

もしかすると、女子学生の中には、

「結婚さえすれば、夫が自分の奨学金を返済してくれるはずだ！」

と考え、奨学金に手を出している人もおられるのでしょうか？

中には代わりに払ってくれる夫もおられるでしょうが、

「どうせ誰かが自分の借金を払ってくれる」

という安易な考えで大丈夫でしょうか？

人と人はお互いに支え合って生きている、と言われていきます。

それは「**支え合って**」なのであって、「支えて」ではありません。

自分だけが100%支えられるわけではないのです。

奨学金は借金ではありますが、その借金によって学生は、

学業に集中できる充実した学生生活が**支えられた**はずです。

となれば今度は、その学生が社会人となり、

稼いだ中から奨学金を返済することで、

きちんと**支え返すべき**でありましょう。

(続)

//=====//

●甘え、誰かが何とかしてくれる④

「どうせ、誰かが何とかしてくれる」と、
私たちは心の奥底でそう思い込んでいます。

「妻の奨学金の返済は、夫が責任を負うのか？」

ということで奨学金のトラブルの事例を取り上げましたが、
奨学金に限らず、自分の問題は誰かが解決してくれるだろう、
と誰もが甘い期待を持っているものです。

もっと言うと、自分に問題が降りかかってこないように、
周囲の人は率先して動いてくれるだろうとすら思っています。

隣の国からミサイルが飛んできたとなれば、

「政府が何とかしてくれる」と考えますし、

生活習慣が祟って病気を患ってしまったとなれば、

「医者が何とかしてくれる」と信じています。

遠いアフリカの地で危険なウイルスが広まっている、

と連日ニュースで騒がれても、国内で感染が報告されない限りは、

「ここは日本だから大丈夫だ」と安心します。

「どうせ政府が何とかしてくれるだろう」と深くは考えません。

そんな風に私たちは、「誰かが何とかしてくれる」と、

危機的な状況であっても危機意識は薄く、

のほほんと生きている実態があります。

しかしそんな私たちにも、誰にも頼ることができない、

平等にやってくる避けられない運命があります。

己の「死」です。

死については誰も何ともしてくれません。
死んでいくときは独りで旅立っていかなければなりません。
老後であれば政府が何とかしてくれるかもしれませんが、
これが死後となれば、社会保障の適用外です。

これだけは誰かに頼ることのできない大問題なのです。
これだけは誰かに頼ることのできない大問題、ではありますが、
それでも私たちは慌てふためいたりはしません。なぜなら、

「そのときはそのときで、どうせ、
神様仏様が何とかしてくれるだろう～ (*^^)v 」
と、どこまでも軽く考えているからです。

(続)

//=====//

●甘え、誰かが何とかしてくれる⑤

「どうせ、誰かが何とかしてくれる」と、
私たちは心の奥底でそう思い込んでいます。

「老後になれば、政府が何とかしてくれる (-。-)y-° ° ° 」
と軽く構えているものですし、

「死後になれば、神様仏様が何とかしてくれる (*^^)v 」
とこれまた驚くほど軽く構えています。

「どうしてそんなにものんきに構えていられるのか！」と問い詰めても、
「いやいや、だって、考えたって分からないことじゃん♪」と、

これまたのんきな答えが返ってきます。

「これは想定外な災害だ、1000 年に一度の大災害だ！

だから、もう二度とこのような被害を繰り返さないように、

災害があったことを忘れないように啓発しよう！」

と呼びかけるも、時間が過ぎれば忘れていきます。

それどころか、

「どうせ 1000 年に一度の災害だろ？

だったら当分は大丈夫なんじゃないの？」

と大災害であったことを逆に安心の種とする始末です。

1000 年に一度と言っても、

「1000 年間隔でやってくる」というわけではありませんので、

「1000 年後に再びこの災害が起こる、つまり 1000 年間は安全だ！」

と言うのはまったく的外れです。

「いつ何が起こるか分からない」

諸行無常がこの世界の姿です。が、

「まあまあ、でも実際、そんなすぐに地震はこないでしょう。

もしきたら、そのときはそのときで何とかありますよ。

明日には明日の風が吹くように。」と、

明日の風が何とかしてくれることに期待しています。

それが良いとか悪いとかではなく、そうやって、

程よく思考停止することで無難に生きているのが私たちです。

(完)

//=====//

Web サイト：

心を力学する ー原理・原則に基づく生き方を考えるー

著者：

時無 和考(Tokinashi Kazutaka)